

【はじめに】

令和6年度を迎えました。今日から新しいチームで第一歩を踏み出します。開校以来、教職員が努力を重ね、保護者や地域の方と連携し合う中で、和田小の伝統は築かれてきました。今後も続く和田小の歴史の1年を私たちは担うこととなります。本年度は開校30周年を迎える節目の年でもあります。これまで培われてきた伝統を大切にしつつ、現在の和田小の子どもたちの「よさ」と「課題」を共有し、全教職員の知恵と能力を集めて、新しい和田小の歴史を、チームでつくっていきましょう。

学校の重要な役割は子どもたちに「学力」をつけることです。それは、子どもたちの幸せな人生のために、必要不可欠なものだからです。知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の伸長を目指すことはもちろん、それらを支える学ぶ意欲や挑戦する心、人と協働できる力など、これからの人生を、子どもたちが幸せに生きていくために必要な「学力」を、チームでつけていきましょう。

和田小では、校内での研究・研修を重ね、意図的・計画的に子どもたちの「学力」を高める取組を続けてきました。令和6年度からは所沢市教育委員会「トころん学力向上プロジェクト」の研究1年目となります。これまでの取組と学びで得た知見を土台としながら、「認知能力の向上」「非認知能力の育成」「言語活動の充実」を目指して、全教育活動を通して子どもたちの「未来を切り拓く力」を、チームで育成していきましょう。

【学校教育目標】

心豊かでたくましい児童の育成

- ・すすんで学ぶ子（確かな学力） 《知 育》
- ・助け合う子 （豊かな人間性） 《徳 育》
- ・たくましい子 （健康・体力） 《体 育》

【めざす学校像】

「明日も来なくなる ぬくもりのある 和田小

～ 子どもが幸せになれる学校づくり ～」をめざす

【経営方針】・・・「認め、寄り添う教育」の推進

- (1) 教職員・子どもが、安全に、安心して生活できる学校の環境を整える。
- (2) 実態を把握し、子どもの視点に立った授業を展開し、学力向上を図る。
- (3) 子ども心に寄り添う温かな言葉かけを通して、豊かな心を育む。
- (4) 自分の命と身体を大切に、体力向上を自主的に行う子どもを育てる。
- (5) 保護者や地域の思いや願いを大切にした、「共育体制」を推進する。
- (6) 魅力ある授業実践や研修等を通して、教職員の資質向上を図る。

【経営の重点】

- (1) 教職員がやりがいを持ち、子どもが安心して生活できる環境の整備
 - ・言いたいことが言える、風通しのよい職場環境づくり
 - ・適正な勤務時間と健康の維持管理、持続可能な働き方となる改革の推進
 - ・子どもが安全に過ごせる施設の維持、安心して生活できる居場所づくり
- (2) 思考を深める授業の充実 《学力向上》
 - ・所沢市教育委員会「トころん学力向上プロジェクト」の推進

- ・認知能力の向上、非認知能力の育成、言語活動の充実
 - ・基礎基本の定着、授業基本形の定着の推進
 - ・全国、埼玉県学力学習状況調査の活用
 - ・授業を中核に据えた、主体的な校内研究の推進
- (3) 豊かな心と人間関係の育成 《規律ある態度》
- ・集団生活の約束を徹底し、互いに認め合える関係を築く学級経営
 - ・道徳の授業と日々の生活を通じた道徳教育の推進
 - ・よりよい人間関係の構築を目指す学級活動の推進
 - ・食習慣を育てる給食指導、心を育てる清掃活動の推進
 - ・子どもに関する情報の共有、共通認識、共通行動による指導体制
- (4) たくましい身体の育成 《体力向上》
- ・十分な運動量を確保した体育授業の充実
 - ・アウトドアデイを中心とした外遊びの励行
 - ・サーキットトレーニングの推進
- (5) 学びに向かう力の基盤となる体験学習の推進
- ・各教科等の学習と関連させた体験学習の推進
- (6) 保護者・地域との「共育体制」の推進
- ・学校応援団によるボランティア活動
 - ・地域住民を中心としたゲストティチャーの招聘
 - ・高齢者や幼児との交流
 - ・民生児童委員等の外部組織・機関との連携
 - ・地域行事への参加

【むすびに】

多様性に対する社会の意識が高まる中、子どもの教育や保護者・地域との関係、さらには同僚である教職員の働き方についても、学校として可能な範囲で、未来を見据えた持続可能な形を築いていく必要があります。

子どもたちは、保育園・幼稚園、小学校、中学校という長いスパンの中で育っていきます。成長は順調だけでなく、時にはつまずき、後戻りしてしまいます。そんな子どもたちを、温かく見守り、進むべき方向を指し示すことは、私たち教職員の使命と言えます。

学校にも説明責任を求められる時代です。学力や体力に関する客観的なデータをもとにした説明も必要ですが、明るく元気に、そして生き生きと活動する子どもの姿こそ、保護者や地域から信頼されるための最も大切な説明材料であると言えます。

そんな、子どもたちの活動を支えるためには、私たち教職員自身が、明るく、はつらつと子どもに向き合う必要があります。そのためにも、まずは自身のそして家族の生活を大切にしてください。

教職員一人一人が互いを認め、力を出し合い、補い合う中で、学校は一つのチームとなっていきます。子どもたちにとって、「明日も来たくなる めくもりのある 和田小」となるよう、そして、「子どもが幸せになれる学校づくり」が実現できるよう、共に力を尽くしていきましょう。